

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	82人	算数	82人	理科	82人
第5学年	国語	72人	算数	72人	理科	72人

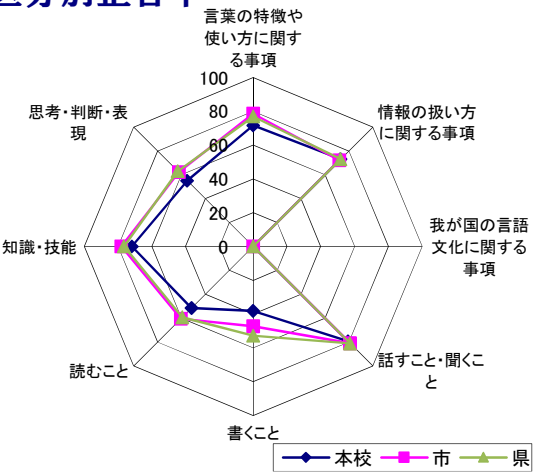
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.7	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	73.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	79.3	81.0	81.1
	書くこと	38.1	47.2	52.8
	読むこと	51.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	71.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	55.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

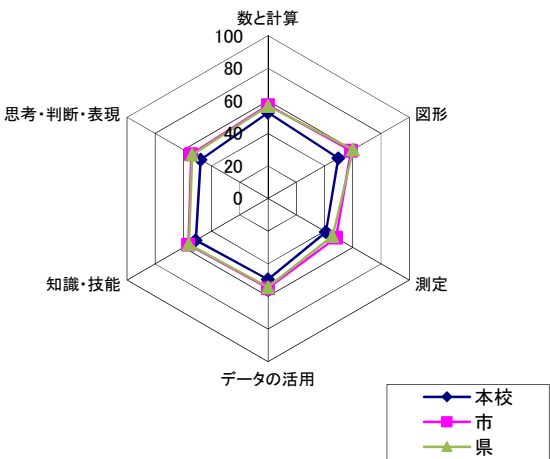
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●第3学年に配当されている漢字の読み書きについて6問中5問が県の平均正答率を下回った。	・新出漢字の指導では、繰り返し練習したりAIDリルを活用したりして定着を図る。また、既習漢字においては作文指導や他教科の学習の際にも積極的に使えるように指導していく。 ・漢字ミニテストを実施し、繰り返し練習して定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典の使い方についての設問の正答率が73.2%と、県の平均正答率を0.1ポイント上回った。	・国語辞典の使い方を継続的に指導したり、授業の中で分からない言葉は積極的に国語辞典を使って調べる活動を取り入れたりすることで、国語辞典を使う意義を学べるように続けていく。
話すこと・聞くこと	○司会者の話し方の工夫を捉える設問の正答率は85.4%と、県の平均正答率を4.9ポイント上回った。 ●話したいことの中心を捉える設問や、司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめる設問、相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す設問は、どれも県の平均正答率を下回った。	・聞く力を育てるために、話が終わった後に、結局何が言いたかったのかを尋ねるようにし、話の中心を意識して聞くことができるように指導していく。 ・話す力を育てるために、話し合い活動や発表、スピーチなど、自分の考えを理由を明確にしたうえで、順序立てて話す機会を多く設けていく。
書くこと	●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の正答率は24.4%と県の平均正答率を17.3ポイント下回った。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章に書く設問の正答率は県の平均正答率を15.5ポイント下回った。	・授業や学習の振り返りの中で自分の考えと理由をワンセットで記述できるように指導する。 ・自主学習に作文や視写を取り入れ、文章を書くことに苦手意識をもたないように指導をしていく。また、作文を書かせる際には、テーマや文字数、段落数を指定するなど決められた条件で書くことができるように指導を工夫する。
読むこと	●登場人物の気持ちについて叙述を基に考える設問の正答率は、県の平均正答率を15.6ポイント下回った。 ●登場人物の気持ちの変化について具体的に想像する設問については、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。	・物語文の学習では、登場人物の言葉や様子の叙述に着目させて登場人物の気持ちやその変化を読み取るように指導していく。 ・朝の読書タイムや読書週間などを通して読書の習慣を定着させる。また、図書室の積極的な利用を促し、本と触れ合う機会を多くする。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	52.8	57.4	56.9
	図形	49.7	58.7	60.1
	測定	40.9	48.1	45.7
	データの活用	49.6	54.9	54.3
観点	知識・技能	51.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	47.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

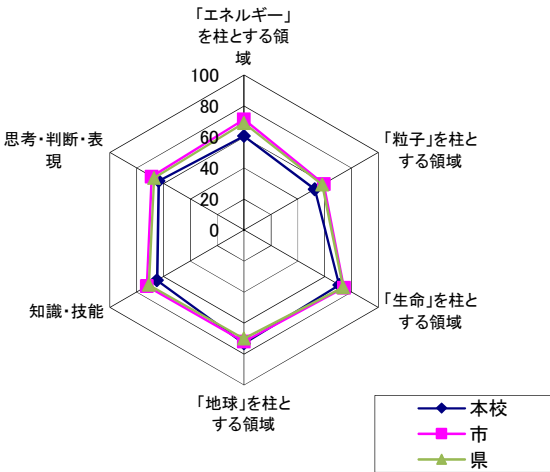
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大きな数の表し方について問われた問題では、正答率が51.2%と、県の平均正答率を4.5ポイント上回った。 ●余りを切り上げて答えを求める問題では、正答率が41.5%と、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。	・大きな数の表し方や分数・小数の仕組みを正しく理解し、繰り上がりや繰り下がりがある計算も正確にできるように、AIDリルや朝のスキルタイムを使い、繰り返し学習し、定着を図っていく。 ・実生活に根ざした問題を設定し、興味をもって学習に取り組めるようにする。
図形	●球を平面で切ったときの正しい切り口を選ぶ問題では、正答率が56.1%と、県の平均正答率を17.9ポイント下回った。 ●二等辺三角形になるための頂点を選ぶ問題では、正答率が24.4%と、県の平均正答率を7.8ポイント下回った。	・具体物を用いた活動を多く取り入れ、図形の意味や性質や特徴を帰納的に捉えて理解できるようにするとともに、図形を見分け、その理由を説明できるようにしていく。
測定	○重さを基準量のいくつ分かで考え説明をする問題では、正答率は51.2%と、県の平均を5.5ポイント上回った。 ●経過した時間を基に時刻を求める問題の正答率は41.5%で、県の平均を14.5ポイント下回った。 ●2つの道のりを比べ、どちらが短いかを問う問題の正答率は39.0%で、県の平均を12.7ポイント下回った。	・考えや学んだことを自分の言葉で説明する活動を今後も授業の中に取り入れ、論理的思考力を高めていく。 ・いくつかの手順を追って答えを導き出す問題を苦手とする児童が多いことが分かる。課題に対して見通しをもち、じっくり粘り強く思考することができるよう、日々の授業の中で、課題提示や学習形態の工夫を行っていく。
データの活用	●二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ問題の正答率は、50.0%で、県の平均を10.7ポイント下回った。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率は40.2%で、県の平均を2.4ポイント下回った。	・算数の時間だけでなく、社会科の表やグラフの読み取りなどを通して、様々なデータの読み取りや活用に慣れさせていく。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.6	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	52.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	70.9	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	73.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	64.8	72.5	70.9
	思考・判断・表現	63.5	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○輪ゴムの数と車が動く距離の関係について正しい文章を選ぶ設問では、正答率が91.5%と、県の平均正答率を2.2ポイント上回った。 ●複数の鏡ではね返した日光を重ねて当てた場所のうち、同じ温度になる箇所を答える設問では、正答率が41.5%と、県の平均正答率を16.9ポイント下回った。 ●豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選ぶ設問では、正答率が56.1%と、県の平均正答率を16.2ポイント下回った。	・正答率が高かった輪ゴムの性質については、実際に輪ゴムや車に触れたり操作したりしながら学習を行った。今後も、十分に活動時間を確保し、体験を通して学習内容の定着を図っていく。 ・日光が重なると温かくなることへの理解が不十分であったと思われる。定期的に実験結果を振り返ったり、日常生活に結び付けて考えたりすることを通して、学習内容の習熟を図っていく。 ・回路については、追加実験や作図などで復習し、豆電球に明かりがつくときの正しいつなぎ方を理解させていく。
「粒子」を柱とする領域	○同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える設問における平均正答率は85%を超えており、多くの児童が理解できていた。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想する設問における正答率は19.5%と、県の平均正答率を7.5ポイント下回った。	・実験や観察を行う際には、予想や仮説を基に見通しをもって実験や観察に取り組みせ、導き出した結果からどんなことが言えるのかを推測したり、予想や仮説と対比させてまとめたりする活動の充実を図っていく。 ・苦手意識が強く見られる単元については、一人一台端末を活用したり、他教科と関連させたりしながら意図的に復習する時間を確保し、正しい知識の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	○クモが昆虫であるか判断する設問では、正答率は67.1%と、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。 ●植物の体のつくりの共通点について問われた設問では、正答率は67.1%と、県の平均正答率を14.9ポイント下回った。	・本校は自然豊かな環境にあり、昆虫や植物を観察する機会に恵まれている。今後もこの利点を理科の観察・実験に生かしていく。 ・様々な動植物のつくりについて、実物や標本を用いて観察し、分かったことを自分なりの言葉でまとめる活動を取り入れることで、学習内容の定着と表現力の向上を図る。
「地球」を柱とする領域	○方位磁針の正しい使い方についての設問では、正答率が73.2%と、県の平均正答率を9.5ポイント上回った。 ●太陽と日陰の位置関係について問われた設問では、正答率が76.8%と、県の平均正答率を1.0ポイント下回った。	・器具の正しい操作については、他教科と関連を図ったり身近な学校生活の中で使用したりするなど、これからも活用機会を増やして理解を定着させていく。 ・太陽と影の関係については、実験結果から考察する時間を確保し、自分で書いたり、友達と話し合ったりすることで、理解を深められるようにする。また、一人一台端末を活用し、動画やアニメーションを見るなどして、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立細谷小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は84.9%で、県の平均より1.5ポイント高い。学習に対して前向きに臨んでいる児童が多いと考えられるため、今後も課題や活動内容を精選し、楽しい授業を展開していきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」の肯定割合83.8%で県の平均より4.7ポイント高い。担任が多様な考えを引き出せるよう意図的指名をしたり、発表しやすい雰囲気づくりをしたりするなど工夫していると考えられる。引き続き学習内容の充実を図っていききたい。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」の肯定割合は62.8%で、県の平均より6.3ポイント高いのに対して、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合はそれぞれ69.7%、71.0%で、どちらも県の平均より4.6ポイント、3.7ポイント低い。学習の予習をしようという前向きな学習は見られるものの、自主的・計画的に学習に取り組もうという意欲は低いと考えられる。家庭学習のやり方を指導するとともに、望ましい家庭学習の取り組みを広めるなどして、見通しをもって学習に臨もうとする意識を高めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定割合は82.5%で県の平均より18.7ポイント高い。自分の思いや考えを文章で表現することに苦手意識がある児童が多い。苦手意識を克服するために、毎時間実施するまとめや振り返りなどの書く時間に、穴埋め方式などを取り入れ段階的に書くことで苦手意識を払拭し、書く力の向上を図っていききたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定割合はそれぞれ80.3%、54.6%で、県の平均より4.9ポイント、4.0ポイント高い。自分の考えを書くことは難しいが、自分の考えを伝え合う活動はできていると感じている児童が多い。多様な形態での話し合い活動を取り入れ、それを書く力の向上に繋げていきたい。

●「家でのきまりや約束を守っている。」の肯定割合は83.7%で県の平均より7.0ポイント低い。全教職員の共通理解のもと、きらきら細谷っ子生活のきまりの徹底を図り、児童指導の徹底を図っていききたい。また、懇談会やさくら連絡網を活用し、家庭への啓発にも取り組んでいく。

●「理科の学習は好きですか。」の肯定割合は77.9%で県の平均より12.7ポイント低い。また、「理科の学習は、将来のために大切だと思いますか。」の肯定割合は82.6%で県の平均より8.1ポイント低い。理科学習の大切さが伝わるような授業の展開、教材教具の工夫をして興味関心の高揚を図っていききたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。」の肯定的割合が、県の平均を1.9ポイント上回っている。安心して学習できる環境づくりや児童と教師との信頼関係をこれからも大切にしていこう。

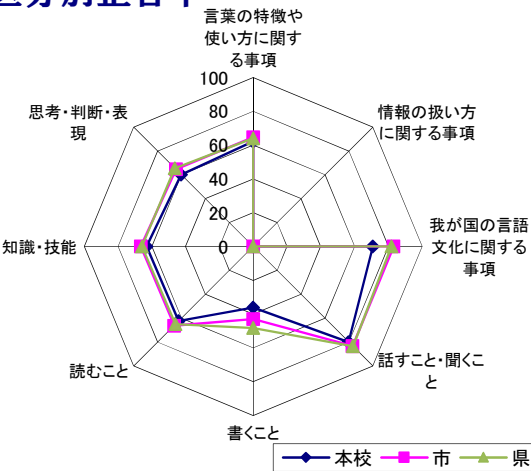
●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」で4時間以上と回答した割合は24.4%で、県の値よりも約10ポイント上回っている。家庭との連携を図り、これら端末の長時間の使用による生活の乱れや依存防止への啓発、より良い活用方法を指導していく必要がある。

●「学校のきまりを守っている」での肯定的割合が90.7%と、県の平均と比べ3.5ポイント下回った。教室に「きらきら細谷っ子生活のやくそく」を掲示し、周知徹底するとともに、保護者に周知を行い、家庭の理解と協力を仰いでいく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	62.2	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	70.8	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	79.9	83.3	83.4
	書くこと	36.1	42.8	48.2
	読むこと	62.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	63.1	66.5	65.9
	思考・判断・表現	60.2	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

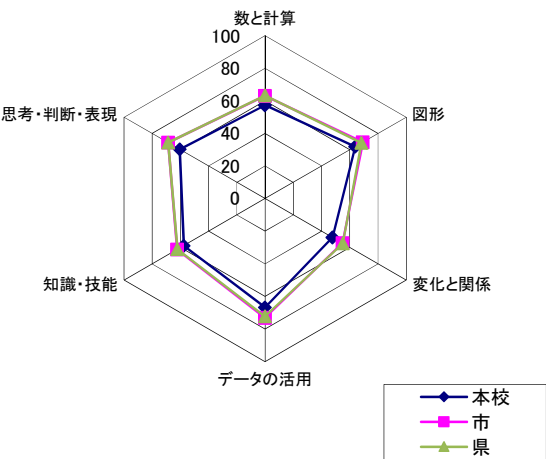
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○4学年までに該当されている「季節」の漢字を書く設問では、正答率が65.3%と、県の平均正答率を12.2ポイント上回った。 ●4学年までに該当されている「試み」の漢字の読みについては、正答率が55.6%と、県の平均正答率を10.5ポイント下回った。 ●修飾している言葉を選ぶ設問では、正答率が11.1%と、県の平均正答率を3.6ポイント下回った。	・朝の学習や授業において、新出漢字を正しく習得する指導を継続するとともに、既習漢字を文章の中で使えるように指導していく。また、熟語として覚えたり、送り仮名を正しく書いたりできるように繰り返し指導していく。 ・文の構成が理解できるよう、主語と述語や修飾語の関係について定期的に復習していく。 ・一人一台端末のAIDリルも積極的に活用する。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざの使い方を理解し、正しく使っている文を選ぶ設問の正答率が70.8%で、県の平均正答率を11.1ポイント下回った。	・ことわざや慣用語の意味を調べるだけではなく、例文も書き写すことで文の中での使われ方を理解できるように指導していく。 ・実際の生活の場面でどんな使われ方をするかを考えさせたり、実際に書かせたりし、日常で使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○参加者の発言の内容を基に、司会者の発言を書く設問の正答率が77.8%で、県の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ●話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ設問の正答率が80.6%で、県の平均正答率を7.1ポイント下回った。	・話を聞く時には、話し手の伝えたいことや話の中心を意識して聞くことの大切さを継続して指導していく。 ・朝の会のスピーチなどにおいて、友達の話最後まで聞く習慣・態度を身に付けさせる。 ・話し方、聞き方を身に付けられるよう「話し方・聞き方あいうえお」を活用しながら引き続き指導していく。
書くこと	●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の正答率は30.6%と、県の平均正答率を14.9ポイント下回った。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章に書く設問の正答率は25.0%と、県の平均正答率を13.6ポイント下回った。 ●文章を書く設問では、無解答率が約23%と、他の設問に比べ高くなっている。	・自主学習や朝のスキルタイムの中で日記や視写を取り入れ、文章を書くことに抵抗なく取り組めるような指導をしていく。日記を書かせる際には、児童が取り組みたくなるようなテーマを設定したり、文字数や段落構成などを指定したりし、決められた条件で書けるような指導を工夫する。 ・要約や要旨をまとめさせたり、例示した文章構成の組み立て方や基本文型を参考にさせたりして、繰り返し書く指導をしていく。
読むこと	○場面の様子について発言者を捉えることができるかどうかを問う設問では、正答率が66.7%と、県の平均正答率を3.8ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が56.9%と、県の平均正答率を5.3ポイント下回った。	・週末の読書や家読など、家庭と連携しながら読書に親しみ、様々な文章に親しめるよう、指導していく。 ・説明的な文章では、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことを意識させる。 ・物語文では、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像できるようにしていく。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.3	63.0	63.3
	図形	63.9	69.2	68.3
	変化と関係	47.7	54.8	55.0
	データの活用	66.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	57.7	62.3	62.1
	思考・判断・表現	60.5	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

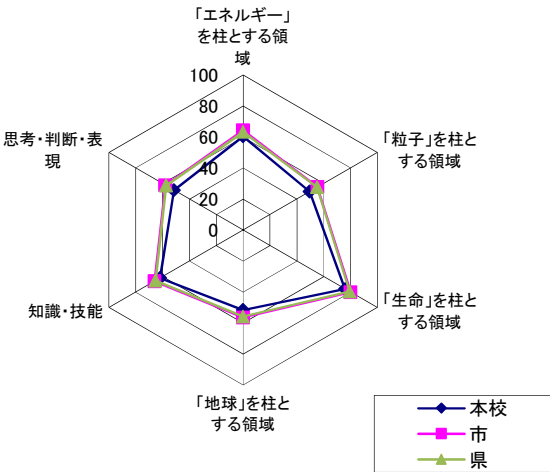
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○2けた÷2けた(余りあり)の計算の問題では、正答率が66.7%と県の平均正答率を1.8ポイント上回った。 ●ある数が基にする数の何倍か、大きい数の仕組みを使って求める問題では、正答率が27.8%と県の平均正答率を8.5ポイント下回った。 ●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、正答率が36.1%と県の平均正答率を12.7ポイント下回った。	・位取りをしながら確認することを習慣化させ、大きい数の概念や仕組みを理解して、活用できるように指導する。 ・図や数直線を使って、1がいくつに分けられており、そのいくつかなのかを確認するなど、分母と分子の関係を確かめたり、帯分数と仮分数の違いを確認したりすることで、分数への理解を深めていく。
図形	○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、正答率が56.9%と、県の平均正答率を3ポイント上回った。 ●立方体と直方体の違いを選ぶ問題では、正答率が80.6%と、県の平均正答率を5.3ポイント下回った。 ●ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題では、正答率が50.0%と、県の平均正答率を12.6ポイント下回った。	・箱や積み木などの具体物や、一人一台端末を活用し、実際に触ったり動かしたりしながら、図形の定義や性質を実感をもって理解できるようにしていく。 ・ものの位置の表し方について、縦軸と横軸がそれぞれ何を表しているのかを確かめ、いろいろな位置を2つの数で表すことで、もとにする位置と表したいものの位置が変わっても同様に表すことができるように指導する。
変化と関係	○割合を使った長さの求め方を説明する問題では、正答率が40.3%と、県の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題では、正答率が58.3%と、県の平均正答率を16.1ポイント下回った。	・伴って変わる数量を式に表したり、式を使って数値を求めたりするために、図や表などを使って考える方法を繰り返し例示しながら、児童の理解を深めることができるようにしていく。 ・数量の関係において、基準量と比較量から割合を求める問題については、図や数直線などを使いながら、友達とペアやグループ等で説明し合う活動を授業に取り入れていく。
データの活用	○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、正答率が72.2%と、県の平均正答率を0.9ポイント上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題では、正答率が56.9%と、県の平均正答率を12.5ポイント下回った。	・必要な数値や数値の意味を、表やグラフから導き出す問題などでは、児童同士で説明し合う活動を取り入れて、互いに理解を深めることができるようにする。 ・二次元の表の意味を理解し、その数値が何を表しているのか、式や言葉、短い文などで説明できるように指導する。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.4	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	49.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	75.9	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	51.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	61.9	66.0	65.3
	思考・判断・表現	51.6	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○電流が流れない原因の箇所を選ぶ設問では、正答率が66.7%と、県の平均正答率を2.0ポイント上回った。 ●直列つなぎの名称を答える設問では、正答率が58.3%と、県の平均正答率を9.0ポイント下回った。	・実験結果を活用する力を付けるために、児童に問題意識をもたせ、予想や仮説を立てることにより見通しをもち観察・実験できるように学習計画を工夫する。 ・実験で使用した道具の名称や、使い方などを十分理解できるように授業の内容を精選する。
「粒子」を柱とする領域	○金属のあたため方について理解しているかを問う設問では、83.3%と、県の平均正答率を3.4ポイント上回った。 ●温度による水の体積の変化を空気と比較して答える設問では、54.2%と、県の平均正答率を14.8ポイント下回った。	・学習環境を整えることにより、日常の様々な自然現象を科学的な目で見るができるようにしていくと同時に、実感を伴った理解を図ることを心掛ける。 ・実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。
「生命」を柱とする領域	○動物の越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ設問では、正答率が88.9%と、県の平均正答率を1.6ポイント上回った。 ●骨のはたらきを説明した文章を選ぶ設問では、正答率が31.9%と、県の平均正答率を10.1ポイント下回った。	・身近な事象の正答率が高いことから、積極的に実験や観察に取り組めるように学習環境を整える。 ・デジタル教科書や動画の視聴などを通して、自分たちでは経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	○1日の気温の変化について答える設問では、正答率が54.2%と、県の平均正答率を11.6ポイント上回った。 ●粒の大きさと水のしみこみやすさの関係について表現する設問では、正答率が70.8%と、県の平均正答率を11.8ポイント下回った。	・今後も実験や観察の後に、ペアやグループ等で考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。 ・実験用具や観察・観測道具の使い方を一つ一つ丁寧に確認しながら活用していく。 ・授業内だけでなく、日々の生活の中で気温を計る経験を積み、理解を深めさせる。

宇都宮市立細谷小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している。」「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定割合は県の平均を10ポイント以上上回っており、家庭学習に対する意識は高い。家庭での学習習慣は定着していると考えられるので、引き続き課題内容の充実を図っていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定割合は県の平均を16ポイント上回り、学校図書の積極的な利用や一人一台端末を有効に活用していることがうかがえる。今後も引き続き課題解決等の手段として活用させていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っくらのきまりなどを決めていると思う。」の肯定割合は95%を超えており、話し合う場の設定が十分にできている。今後も、互いに認め合える話し合いができるよう指導に努めていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか。(テレビゲームはのぞく)」で3時間以上と回答した割合は35.8%、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」で3時間以上と回答した割合は34.6%で、ともに県の値より上回っている。家庭とともに、これら端末の長時間の使用による生活の乱れや依存防止への啓発、より良い活用方法を指導していく必要がある。

●「今回の調さで、国語の問題をとく時間は十分でしたか。」や「国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」の肯定割合は県の平均を5ポイント以上下回っており、国語の文章の要点をつかんで読み取る力や、自分の考えをもち、理由を明確にして書くことができる力を高めていけるよう指導をしていきたい。

●「授業の内容はよく分かりますか」の肯定割合は全教科で県の肯定割合より高い一方で、「算数・理科・総合的な学習の時間の学習はしようにのために大切だと思いますか。」については、県の平均より低くなっている。また、「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」の肯定割合は61.7%で県の肯定割合より大きく下回っている。学習内容を実生活と結び付けたり身近な例と関連付けたりすることで、学習したことが実生活で活用できると感じられるような授業展開の工夫をしていきたい。

宇都宮市立細谷小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まとめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「先生は学習のことについてほめてくれる。」と答えている児童は、4年生が91.8%、5年生が96.3%であり、共に県の平均を上回っている。「自分には、よいところがあると思う。」と答えている児童は、4年生が84.8%、5年生が79.0%であり、4年生がわずかなではあるが県の平均を上回っていて、5年生は下回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と答えている児童は、4年生が90.7%、5年生が93.9%で、4年生は県の平均とほぼ同じで、5年生は上回っていた。今後も児童のよさを認め励ます支援に努めながら、「自己有用感」を高めることができる指導を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まとめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」と答えている児童は、4年生が82.6%、5年生が95.1%であった。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」と答えている児童は、4年生が75.6%、5年生が83.9%であった。引き続き、めあてを明確にした授業を行ったり、学習意欲を引き出す課題提示や教材の工夫を行ったりして、「分かる・できる 授業づくり」の実践に取り組んでいく。
安心して伝え合い、高め合える学びあいの重視	○「きらきら細谷っ子学習の約束」による学習習慣の形成 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成	「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」と答えている児童は、4年生が95.3%、5年生が97.5%で、共に県の平均を上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」と答えている児童は、4年生が80.3%、5年生が79.1%であった。これまでも行ってきたが、引き続き授業の中で意見を交流させる場を意図的に設けるようにする。

基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○学力調査等を活用した共通実践 ○朝の学習の充実(漢字・計算・読書) ○家庭学習(自学)の進め方の指導と家庭学習の定着化 ○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○授業のユニバーサルデザイン化	「家で、学校の宿題をしている。」と答えている児童は、4年生が91.9%、5年生が97.6%であった。「家で、学校やじゅくの決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」と答えている児童は、4年生が65.2%、5年生が70.3%であり、共に県の平均を上回っている。宿題をする習慣は身に付いているが、自主学習については習慣化が不十分なので、進め方の例示や、よくできている児童を賞賛するなど、意欲が続くような働きかけをしていく。
---------------------------	--	---

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えや文章の要旨などを、文章や言葉、式などで表したり、決められた字数で書き抜いたりする問題の正答率が低い。無回答も少なくない。	○考えの根拠を明確にし、推測したり表現したりする力をつけるための活動を取り入れる。 ○相手、場面、目的などに応じて、自分の考えや解き方の説明などを、文章、言葉、式などで分かりやすく表現する力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図る。	・国語などで、テーマを決めて自分の考えを書く機会を増やしたり、各教科で授業の振り返りにおいて学習の要点などをまとめたりするなど、分かりやすい文章を書くことができるよう、繰り返し指導していく。 ・自分の考えを文章で記述する活動を意識して設けたり、自分や友達考えに理由を加えて話し合ったりする場を設けたりすることにより、表現力の向上を図る。